

令和 8 年 4 月 1 日

令和 8 年度 学校経営方針

比治山学園中学・高等学校

はじめに

令和 8 年度、本校は創立 87 周年を迎える。多様性や男女の共同参画が重要視される今の社会において、男子にも門戸を開放し、本校が培ってきた人間性尊重の精神を基盤に、男女共同参画社会の実現や地域社会に貢献できる人材を育成することが、本校の重要な使命であると考え、今年度入学生より中学・高校同時に男女共学化に移行した。今後は、全教職員の参画のもと、新たな学校づくりを進めていく。

一方、令和 4 年度に策定した第二期中期計画における重点事業（13）は、後期 3 年間の実施に向け、入学者確保を最重要事業とする目標のもと、7 事業に整理・統合を図った。どのような方法で実施することが最善あるいは次善であるか、常に見直しを進めながら目標達成のために最大限の努力を行っていく。

➤ 建学の精神

「親心に応えて、悠久不滅の生命の理想に向かって精進する」人材を育成する。

➤ ミッション

建学の精神及び校訓に基づいた中等普通教育を施すことを通して、男女共同参画社会の実現や地域社会に貢献できる人材の育成。

- ① 心安らかに他者とコミュニケーションをとることができる生徒。【正直】
- ② 生涯にわたって学ぶ姿勢を持ち続けることのできる生徒。【勤勉】
- ③ 文化的な態度で、生命の保持・発展に寄与できる生徒。【清潔】
- ④ 幅広い視野を持ち、多様性を認め、他者理解のできる生徒。【和合】
- ⑤ 伝統を継承しつつ、国内外問わず、持続可能な社会の発展に貢献できる生徒。【感謝】

➤ ビジョン

- ① 感性や社会性を身につける学びを通して、ひとりの人間としての確かな土台をつくりあげるとともに、生徒の学力を着実に伸ばし、高い進路目標を達成している。
- ② 学習活動、部活動、学校行事等を通じて、多様性を認め、自己の主体性を確立し、豊かな感性と感謝の心を兼ね備えた生徒を育成している。
- ③ 比治山のブランドイメージが高まり、生徒、保護者、教育関係者から信頼され存在感のある学校になっている。
- ④ 中期収支見込の黒字化に向け、経営改革の取組みを着実に進めている。

➤ 重点事業

	重点事業名	事業内容	令和 8 年度計画
1	学活・総合的な探究の時間の再編成	学活および総合的な探究の時間については、年間を見通した計画のもと、学校行事等により時間的な柔軟性が生まれる時期を活用し、重点的に実施する。特に、修学旅行期間中は他学年において時間割調整が可能となることから、この時期を活用して校外学習や外部機関との連携を含む探究活動を実施する。	1.学活・総合の指導計画の完成に向けて協議・検討
2	魅力ある中学体験学習・研修旅行・修学旅行の検討	本校の教育内容とリンクさせた中学体験学習及び研修・修学旅行の在り方を検討する。	1.新体験学習・旅行実施
3	比治山サポートルームの設置	不登校傾向や保健室登校の生徒に対する学習および心理的支援の充実を図るため、「比治山サポートルーム」を設置する。個々の状況に応じた学習課題の提示や教材の共有、面談等を通して、学習機会の保障と段階的な教室復帰を支援する体制を整える。	1.比治山サポートルームの運用・改善
4	広報活動の強化	地域への比治山ブランドの確立 ①地域の活性化と社会貢献を図るため、「ひじやまセミナー」を充実させる。 ②小中学校グループの児童生徒に対してクラブ部員の派遣事業を展開する。 ③比治山の魅力を発信する。 ④地域に対して主体的に考え行動する生徒を育成する。	1.セミナー内容の深化 2.指導者・生徒の派遣 3.OS・学校説明会等広報活動の充実 4.ひじっ子みゆにていーくりーんの実施
5	ICTを活用した個別最適化学習の推進	生徒一人ひとりの個性や能力、適性に 応じた指導の充実を図るため、個別最適化学習アプリを全校生徒に導入する。	1.アプリの運用・研究・見直し・継続可否の決定
6	効果的な教育ソフトウェアの導入と ICT 機器の整備	ICT ツールであるグループウェアの見直しを図るとともに、基盤システムである学籍ソフト、学籍サーバーや、職員室、CAI 教室の PC、教員用・予備 iPad を更新する。	1.教員用・予備 iPad、職員室等の PC の更新について検討 2.教室のプロジェクター等の更新
7	生徒減少に対応した今後の学校の在り方検討	少子化の進行や生徒の多様な個性や特性に的確に対応した中高一貫教育を実現するため、入学者選抜や学校規模等、将来構想の具現化を図る。	1.男女共学化 2.通信制課程準備

➤ 重点目標

1 将来構想の実現に向けて

86年の伝統を基底に据えた「多様な生徒を支援する面倒見の良い学校」としてアピールした男女共学化初年度は、中高とも、入学生が大幅に増加した。今後の継続的な入学確保のためには、生徒及び保護者の学校に対する満足度の向上が不可欠である。その視点に立って、全教職員で意識統一した教育活動を展開する。

また、令和9年度からの通信制課程導入に向け、担当者を中心に、教育内容の編成、広報活動等に取り組む。

学校改善・改革・創造委員会において、男女共学化に伴う現状の把握、通信制課程準備の進捗状況等について情報共有するとともに、適切な改善を図る。

2 経営改善プロジェクトについて

経営改善プロジェクトにおいて、現状の経営状況を踏まえ、収支の改善に向けた具体的な施策を議論し、全教職員との情報共有のもと、その実現を図る。

3 授業力向上について

質の高い授業を生徒に提供するためには、日々の教材研究等の自己研鑽とともに、相互研鑽も重要である。管理職による授業観察を年2回(5月末～6月初旬、11月を予定)実施するとともに、その時期に合わせて、相互授業観察をすすめる。

また、各授業において、本時の目標(めあて)を明示するとともに、知識の習得と活用の場をバランスよく配置し、探究的な学びの深化に努める。

4 個別最適な学びの推進について

入学してくる生徒の学力も多様化しており、個々の生徒のニーズに即した支援が欠かせない状況となっている。スタディサプリの積極的な活用とともに、学習面でつまづいている生徒、より発展的な学習を望んでいる生徒に対して、補充・補習等の必要な手立てを講ずる。

5 学校生活に適應できない生徒の支援について

コミュニケーション能力が十分に育っていない生徒の増加、社会の変化による家庭環境の多様化、入学生の学力の多様化等の影響から、ここ数年、転学・退学者が増加傾向にある。個々の生徒を取り巻く環境は多様であり、これまでも、生徒に寄り添う丁寧な指導が行われてきた。一方で、教師の指導に対する生徒の受け止め方は多様であるという認識に立ち、日々の指導に対するきめ細かな配慮が重要である。受け入れた生徒に対して、進級・卒業を目指させるという前提のもと、教育相談体制の充実、関係者間での情報の共有等、生徒を鍛えるとともに寄り添う指導を徹底させる。